

ぶどうの木



第257号 2024年12月号

発行人 牧師 広田叔弘
企画編集 広報委員会
www.church.ne.jp/umegaoka/
2024年11月24日発行

〒155-0033
東京都世田谷区代田3-37-7
TEL: 03-3414-5772
FAX: 03-3414-5778



『バザーを終えて』

牧師 広田叔弘

御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです。

テモテへの手紙 二 4章2節

「無理なく、事故なく、皆で力を合わせて感謝のできるバザーになればいい」このように願って、祈りつつ備えてきました。役員会とバザー委員会で真剣な話し合いが繰り返されました。そして、祈りは聴かれ、幸いなバザーとなりました。主の恵みと共に、見えるところ、見えないところで、たくさんの方の協力がありました。ありがとうございます！

私は会場で腰を下ろしていました。いつの間にか、「あの人はここにいた。あの人はそのスペースでニコニコと働いて・・・。」天国にいる信仰の身内たちを思い出していました。同様のことを思っていた方も多いのではないかと思います。そして「あと五年たつたら、梅ヶ丘教会はどうなっているのだろう。」と、考えていました。ヨーヨー釣りなどを用意したのですが、子どもの数は少なかった。五年後の私は七十歳の手前です。自分に対してもイメージがつかめません。過剰に心配する必要はありませんが、教会にとっての現実

が易しくないことも事実です。

聖書は「御言葉を宣べ伝えなさい」と告げます。これが教会の行くべき道です。これ以外にはありません。これを続けなければならない。同時に、時代の現実に対応していくことは必要です。手本はパウロです。

当時信仰の本流はエルサレム教会でした。パウロは支流の伝道者です。けれども、やがて本流と支流の立場が逆転していきます。エルサレム教会はユダヤ教の伝統を超えることが出来ませんでした。これに対してユダヤ本土を離れて暮らすユダヤ人キリスト者たちは、インターナショナルなセンスを持っていました。パウロは言います。「ユダヤ人とギリシア人の区別はなく」(ロマ10・12)彼らはユダヤ教の枠を超えて、当時のあらゆる人々に通じる福音の言葉を語り始めたのです。

教会の土台を変えてはいけません。教会は、福音によってのみ立ちます。そして、変化を続ける時代を学び、人々の心を理解したいと思います。宗教的な上から目線ではなく、同時代を生きる人々の悩みや困難さ、そして希望を理解し、福音のメッセージを求めていきたいのです。心の扉を開く鍵は愛です。愛をもって隣人の心を尋ねたい。今日から明日へと、力を合わせて福音を伝えていきましょう。